大阪府埋蔵文化財調査報告 2009-14

桑 原 遺 跡 Ⅱ

安威川ダム建設事業に伴う桑原西古墳群の調査

大阪府教育委員会

はじめに

大阪府茨木市は、市街地にあたる平地と京都へと続く山間部からなります。桑原遺跡が所在する山間部への入口は、豊かな自然に加えて、遺跡や石造物をはじめとする多くの歴史遺産にも恵まれています。しかしながら、今回の調査区に近接する安威川上流域は安威川ダムの建設により、今まさに、大きく景観を変えようとしています。

平成16年度から開始した発掘調査により、安威川が大きく屈曲する微高地にあたる桑原地区に、弥生時代から中世にかけての長期間にわたる桑原遺跡と、古墳時代終末期を中心とする桑原西古墳群とが存在することがわかりました。調査区の北東には藤原鎌足の墓といわれる阿武山古墳が国史跡として、北西には磚敷きの石室を持った初田古墳群が移築保存され見学できる施設として存在し、桑原地区はそれら残された7世紀の古墳が集中する特異な歴史環境に包まれています。本報告は、桑原西古墳群においてみつかった横穴式石室の調査成果を中心として、平成19年度に刊行した桑原遺跡の調査報告を補完するものであります。この調査成果は、その地域性のある環境を解明するための重要な手がかりになるものと言えるでしょう。

この地に恵まれた豊かな自然と歴史遺産が姿を変えつつあることを再確認し、幸運にも残される遺産に目を向け、地域府民のより豊かな質の高い生活環境とは何であるかということを振り返るきっかけにしていただきたいと考えております。

上記の成果を得た調査の実施にあたっては、大阪府都市整備部安威川ダム建設事務所、茨木市教育委員会、地元自治会各位をはじめとする多くの関係者の方々にご協力いただきました。深く感謝するとともに、今後ともこの地における文化財保護行政にご理解、ご協力をお願いする次第であります。

平成22年　3月

大阪府教育委員会事務局
文化財保護課長　野口　雅昭

例言

1．本書は、大阪府教育委員会が、大阪府都市整備部の依頼を受け、安威川ダム建設事業のうち残土処分地「桑原地区」について平成16～18年度に実施した、茨木市桑原所在、桑原西古墳群の発掘調査の報告である。平成19年度の調査成果報告後、平成20年度に継続して整理をおこなった結果新たに得た知見について平成21年度に本報告書の作成をおこなった。調査番号は平成16～17年度が04040・05002、平成17～18年度が05045・06001である。

2．調査は、文化財保護課　調査第一グループ主査　一瀬和夫（平成16～18年度）（現・京都橘大学）、技師　小川裕見子、特別嘱託員　堀江門也（平成16・17年度）が担当し、遺物整理は調査管理グループ主査　三宅正浩、技師　藤田道子が担当した。

3．調査に要した経費は、大阪府都市整備部が負担した。

4．調査の実施にあたっては、大阪府都市整備部、茨木市教育委員会、安威川ダム建設事務所をはじめとする諸機関、諸氏の協力を得た。

5．本書の編集は、小川が担当し、執筆は一瀬・小川がおこなった。文責は各々文末に記した。

6．本書に掲載した遺構写真の一部及びすべての遺物写真の撮影は、有限会社　阿南写真工房に委託した。航空写真測量については平成16年度は玉野総合コンサルタント株式会社大阪支店、平成17・18年度は株式会社航空撮影センター大阪支店へ委託した。

7．本報告書は、300部を作成し、一部あたりの単価は368円である。

＊付図の石室床面平面図において、土器に付随する番号は、大阪府教育委員会2008『桑原遺跡』安威川ダム建設事業に伴う桑原地区の調査　大阪府埋蔵文化財調査報告2007－4で報告した、各々の古墳から出土した土器の番号に対応するものであり、実測図等についてはこれを参照されたい。

桑原遺跡　Ⅱ

大阪府埋蔵文化財調査報告　2009-14

Kuwanohara Site　Ⅱ

Osaka Prefecture Buried Cultural Property Report Series 2009-14

目　次

Contents

はじめに　Forward

例言　Explanatory notes

目次　Contents

桑原西古墳群の概要　Reports on Kuwanohara-nishi Kofungun

報告書抄録　Reference Card

挿図表　Table and figures

図１　調査位置図　Figure 1 Location of the Site

表１　古墳一覧　Table 1 List of Buirial Mounds

図２　桑原西古墳群古墳分布図　Figure 2 Distribution map of Kuwanohara-nishi Kofungun

付図　Plates

付図１　Ａ３号墳　横穴式石室　Plate 1. Stone Chamber: Tumulus A3

付図２　Ａ４号墳・Ａ８号墳　横穴式石室　Plate 2. Stone Chamber: Tumulus A4 and A8

付図３　Ａ７号墳　横穴式石室　Plate 3. Stone Chamber: Tumulus A7

付図４　Ｂ１号墳　横穴式石質　Plate 4. Stone Chamber: Tumulus B1

付図５　Ｂ４・Ｂ８号墳　横穴式石室　Plate 5. Stone Chamber: Tumulus B4 and B8

付図６　Ｂ８号墳・Ｃ１号墳　横穴式石室　Plate 6. Stone Chamber: Tumulus B 8 and C1

付図７　Ｃ３号墳　横穴式石室　Plate 7. Stone Chamber: Tumulus C3

付図８　桑原西古墳群　墳丘測量図　Plate 8. Contour Map of Kuwanohara-nishi Kofungun

桑原西古墳群の概要

調査に至る経緯

桑原遺跡のある安威川ダム建設に伴う残土処分計画地である桑原地区においては、約100,000㎡の圃場整備が計画された。著しい量の盛土に埋没する南半分の一部について、平成15年度に約30,000㎡を対象に試掘調査を行った結果、平成16年3月に新規発見遺跡となった（註1）。

平成16年度は桑原遺跡とされた範囲の南東部低地部分、5180㎡の発掘調査を実施し、平成17年度は下半期より、平成16年度調査区に囲まれるように農作用グラスハウスが存在していた遺跡の中央部北側の高台部分3880㎡の調査を実施した。この調査では、前年度調査区と同様の掘立柱や溝の遺構に加え、古墳時代終末期の群集墳を発見した。この調査は平成18年度上半期まで継続し、下半期に検出遺構から得た資料及び出土遺物の整理作業を行った。平成18年4月22日には現地説明会を行い、約900人の来場者に調査経過を公開した。

また、大阪府文化財情報閲覧システム（註2）において、調査地から古墳を検出する以前より、調査地の東側に急上昇する尾根に「桑原古墳群」という名称の遺跡が存在した。その桑原古墳群と、新規発見の桑原遺跡内の群集墳との関係を確認するために、平成18年度上半期に3回にわたって周辺の踏査を行った。調査所見の検討の結果、地図上の桑原古墳群は実際よりもやや西にずれた位置に存在しており、現在は当該古墳群は安威川ダム建設関連事業の道路付け替え工事によって削平・消失した可能性が高い。

この検討の結果、推定される桑原古墳群の原位置は、2008年2月14日当時にマーキングされていた桑原西古墳群の西約80 m付近に位置すると推定する。これは、桑原遺跡に繋がる尾根とは別の方向にのびる尾根上にあたり、そこで一旦途切れることから、新規発見の群集墳は別の古墳群とみなすべきと判断した（図1）。また、調査区の北東にある丘陵の現況においての裾部付近に3カ所の古墳状隆起は存在する。調査区との距離や尾根に対する分布状況からも、こちらは同一の遺跡であると考える。以上の事項から、桑原遺跡内に新しく発見された南北80m、東西70mに密集分布する古墳時代終末期の古墳範囲、及び現・桑原古墳群の西南方向約100 mの辺り辺りに存在する古墳状隆起を合わせて、桑原西古墳群とした。

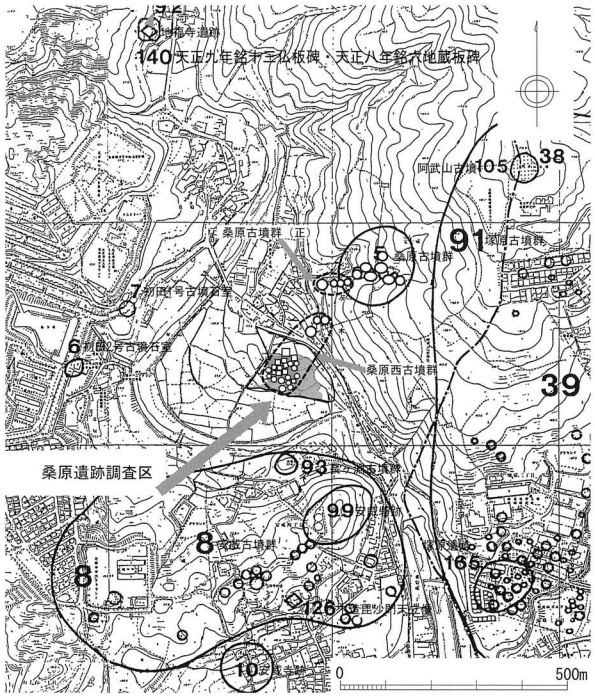


図1　調査位置図

現在、桑原西古墳群の主要地方道茨木亀岡線以南は、ダム工事によって排出される残土の

表１　古墳一覧

支群	古墳番号	築造時期	被葬者数（最低）	墳丘形状	墳丘規模（m）	主体部	玄室長（m）	玄室幅（m）	玄室長幅比	墓道長（m）	墓道幅（m）	主軸	耳環	棺釘	備考
Ａｉ	Ａ０・１	—	—	円	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	平成16年度調査区
Ａｉ	Ａ２	桑原Ⅱ期	—	円	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	墳丘北1/3のみ残存
Ａｉ	Ａ３	桑原Ⅲ期	3	円	約12.90	無袖 横穴式石室	3.70+α	1.32	—	—	—	Ｎ１°Ｅ	銀大１ 金小１	有 陶棺	須恵質四注式陶棺・棺釘多 須恵・土師器あるが土器少
Ａｉ	Ａ４	桑原Ⅴ期	2<	円	約11.90	無袖 横穴式石室	4.92	1.20	4.10	排水溝 3,67	0.80	N21°Ｅ	—	有	墳丘いびつ・盛土美・床礫敷 副葬土器多・墓道よりも土器
Ａｉ	Ａ５	桑原Ⅰ期	—	方	約11.60	—	—	—	—	—	—	—	—	—	墓道痕跡と巨石のみ 存在不確定
Ａｉ	Ａ６	桑原Ⅰ期	—	長方	約11.80	—	—	—	—	—	—	—	—	—	主だった主体の痕跡なし
Ａii	Ａ７	桑原Ⅱ期	2<	方	約10.10	無袖 横穴式石室	6.00	1.04	5.77	—	—	N21°W	金小１	無	副葬土器多・墓道よりも土器 人骨
Ａii	Ａ８	桑原Ⅱ期	3	円	約10.00	無袖 横穴式石室	5.07	1.07	4.74	—	—	N16°Ｅ	銀大２ （１対）	無	掻き出し 石室内土器少
Ａii	Ａ９	桑原Ⅰ期	—	方	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	周溝のみ 主体不明
Ａii	Ａ10	—	2<?	方	—	—	—		—	—	—	—	金小１	—	墳丘テラス?バラス敷き 主体不明
Ｂ	Ｂ１	桑原Ⅴ期	2<	円	約14.40	無袖 立柱? 横穴式石室	6.70+α	1.58	—	—	—	N11°W	—	有	石室墳丘大・床バラス敷 石室内副葬土師器中心で少なめ
Ｂ	Ｂ２	桑原Ⅰ期	—	方	約11.50	無袖? 横穴式石室	6.52	1.20	5.43	排水溝 4.32	0.20	N14°Ｅ	—	—	石組み排水溝・玄室は痕跡のみ 開口部左巨石を袖石とするか?
Ｂ	Ｂ３	桑原Ⅲ期	1<	円	約12.20	袖は不明 横穴式石室	1.27+α	1.89	—	—	—	N12°Ｅ		有	墳丘・石室北1/3以下のみ残存 床礫敷き
Ｂ	Ｂ４	桑原Ⅱ期	1<	方	約10.50	無袖 横穴式石室	6.60	1.24	5.32	—	—	Ｎ７°Ｅ	金大１ 攪乱より	無 陶棺	石室は痕跡より復元 床礫敷き・琥珀管玉・陶棺破片
Ｂ	Ｂ５	—	—	方	—	袖は不明 横穴式石室	—	—	—	—	—	—	—	—	存在不確定 主体不明
Ｂ	Ｂ６	—	—	方	約11.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	存在不確定 主体不明
Ｂ	Ｂ７	桑原Ⅳ期	1?	円	—	無袖 横穴式石室	4,34	0.95	4.57	1.71	0.87	N11°W	金中２ （１対）	無	土師器一括資料 墓道須恵器カメ
Ｂ	Ｂ８	桑原Ⅰ期	1<	円	約11.80	無袖 横穴式石室	2.25+α	1.00	—	—	—	Ｎ６°Ｅ	—	有	石室は痕跡より復元 須恵器杯Ｈ（他より古め）
Ｃ	Ｃ１	桑原Ⅰ期	2<	方	約8.00	無袖 横穴式石室	4,27	0.96	4.45	—	—	N13°Ｅ	銀中２ （１対）	無 陶棺	石室内須恵器のみ 陶棺破片（石室内・周溝より）
Ｃ	Ｃ２	桑原Ⅱ期	—	円	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	大部分が平成16年度調査区 周溝に土壙墓
Ｃ	Ｃ３	桑原Ⅳ期	1	八角	径約10.0 一辺約4.00	無袖 横穴式石室	5.45	1.20	4.54	—	1.38	N13°W	銀小１	有	副葬土器多・一部土器内ベンガラ 単葬墓であることが明確
Ｃ	Ｃ４	桑原Ⅴ期	—	円	約9.00	—	—	—	—	—	—	—	—	— 陶棺?	大部分が平成16年度調査区 周辺から陶棺片
Ｃ	Ｃ５	—	—	方	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	大部分が平成16年度調査区
Ｃ	土壙墓	桑原Ⅲ期	1	—	—	—	2.77	1.46	1.90	—	—	N15°Ｅ	—	—	須恵器杯、台付長頸壺、土師器杯など多　Ｃ２周溝内
Ａｉ	小石室	桑原Ⅴ期	1?	—	—	竪穴式 小石室	1,38	0.45	3.07	—	—	Ｎ１°Ｅ	銀小３	無	刀子１・大臼歯 墳丘なし・磚敷き

＊築造時期に関しては、第11章　第４節における桑原古墳群の形成過程を参照されたい。

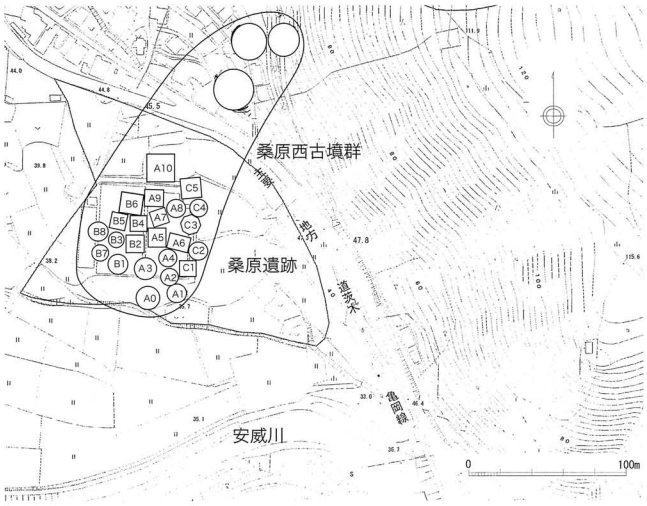


図２　桑原西古墳群古墳分布図

下に埋没した。工事及び圃場整備終了後には、この地に重要な遺跡が眠ることを示す案内板を設置することを依頼している。調査地のすぐ北に新しく建設された桑原地区の公民館では、地元自治会の方々のご要望によって本府教育委員会及び安威川ダム建設事務所が提供した桑原遺跡の発掘調査や現地説明会の様子の写真が展示されており、遺跡の存在と調査成果の周知を行っている。　（一瀬　和夫・小川　裕見子）

調査の概要

桑原地区は大阪府茨木市の山間部への入口にあたる。京都府亀岡市に源を発し大阪府茨木市を流れる安威川は、山間部から平野の低位段丘部に抜ける途中でＳ字に大きく蛇行する。この蛇行部において、西側に張り出す微高地に桑原遺跡は位置する（図１）。遺跡の西北から南側にかけての安威川を挟んだ対岸は、大阪層群から構成される丘陵部である（註３）。東の高槻市側は、傾斜の急な丘陵斜面をもつ阿武山が存在する。この阿武山の南から対岸の丘陵部裾の安威４丁目付近にかけては活断層が存在する。桑原地区より上流にあたる生保地区でも安威川は大きく蛇行しており、これは付近に平行して３本存在する活断層の影響をうけたものであり（註４）、今回の調査区を囲む地区における流路の蛇行も同様の起源による可能性がある。

調査の結果、桑原西古墳群は古墳時代終末期に形成された群集墳であることがわかった（註５）。群集墳内の造墓ピーク期は、横穴式石室の形状及び石室内より出土の副葬土器から、７世紀第２四半期後半～第３四半期前半が中心であり、一部その前後に築造された古墳も含む。密集して築造された墳丘や群の形成過程を追っても、造墓は７世紀初頭（もしくは６世紀の最終末）～７世紀第３四半期までの極短い期間に集中的に、また隣接する４支群が並行して形成されていった。

群内の３つのグループはさほど大きな時期差はなく併行して形成されたが、地形的に高地で一番条件の良く、尾根の稜線からやや下った位置を埋めるＡｉ及びＡii支群が一番早くに形成され、空いた位置を埋めるように両脇のＢ・Ｃ両支群が続いて形成されていったと考えられる。特にＣ支群の北半は墓域東限の谷に近い位置に形成され、立地条件の悪さや、墳丘形態の特徴からも、形成時期が遅れたと考える。各々の古墳の築造時期を検討した結果、時期が下るほど、石室や墳丘のつくりが簡素になり規模も縮小されていくという畿内における横穴式石室の一般的な傾向には、この群内においては同調しない。

副葬土器より追葬は８世紀に入っても行われており（Ａ８号墳・Ｃ１号墳など）、一時の空白期が存在した可能性はあるが、中近世遺物の出土状況から再利用の様子もうかがえる。埋葬時の原位置を保った副葬土器が存続するにもかかわらず、新しい遺物が石室内から出土していたこと（Ｃ１号墳内の瓦器椀やＣ３号墳東横石垣のキセルなど）から、古墳という先人の墓であることを認識しながら、再利用されていたであろう。墳裾を囲う溝、雛壇造成の境界の位置などからも、古墳が集中するエリアを墓域として長く認識していたであろう。（小川）

（註１）大阪府教育委員会　2005『大阪府教育委員会文化財調査事務所年報』８

（註２）http://116900sv001/osk_iseki/info/soloview.asp?mode=mb&ID=9276&NO=0

（註３）宮地良典・楠利夫・武蔵野實・田結庄良昭・井本伸広2005『京都西南部地域の地質　地域地質研究報告（5万分の１地質図幅）』産総研地質調査総合センター

（註４）財団法人　大阪府文化財調査研究センター　1997『安威川総合開発事業に伴う文化財等総合調査中間報告書』財団法人大阪府文化財調査研究センター調査報告書　第９集

（註５）桑原遺跡及び桑原西古墳群の調査成果については、大阪府教育委員会　2008『桑原遺跡』安威川ダム建設事業に伴う桑原地区の調査　大阪府埋蔵文化財調査報告 2007－４　を参照されたい。

報告書抄録

ふりがな	くわのはらいせき に
書名	桑原遺跡Ⅱ
副書名	安威川ダム建設事業に伴う桑原西古墳群の調査
巻次	2
シリーズ名	大阪府埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	2009－14
編著者名	一瀬和夫・小川裕見子
編集機関	大阪府教育委員会　文化財保護課
所在地	〒540-8571　大阪府大阪市中央区大手前２丁目　TEL.06-6941-0351
発行年月日	2010年３月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
くわのはらにしこふんぐん 桑原西古墳群	いばらきし　くわのはら 茨木市桑原	27221	135	34°51'20"	135°34'02"	2004年９月21日～2005年５月20日 2005年11月４日～2006年６月30日	5180㎡ 3883㎡	安威川ダム建設事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
桑原遺跡 桑原西古墳群	古墳	古墳時代	横穴式石室を伴う群集墳	土師器、須恵器、陶棺、磚、耳環、ガラス玉、鉄釘、刀子、人骨片、歯等	調査区中央部の微高地の斜面上に、古墳時代終末期の群集墳。
要旨	谷に囲まれた微高地の斜面に新規発見の古墳時代終末期群集墳が存在した。墓域は谷とともに埋没していた23基以上の古墳を密集して検出した。埋葬主体の残るものは横穴式石室が主であった。				

大阪府埋蔵文化財調査報告2009—14

桑原遺跡Ⅱ

—安威川ダム建設事業に伴う桑原西古墳群の調査—

発行　大阪府教育委員会

〒540-8571　大阪市中央区大手前２丁目

TEL　06-6941-0351（代表）

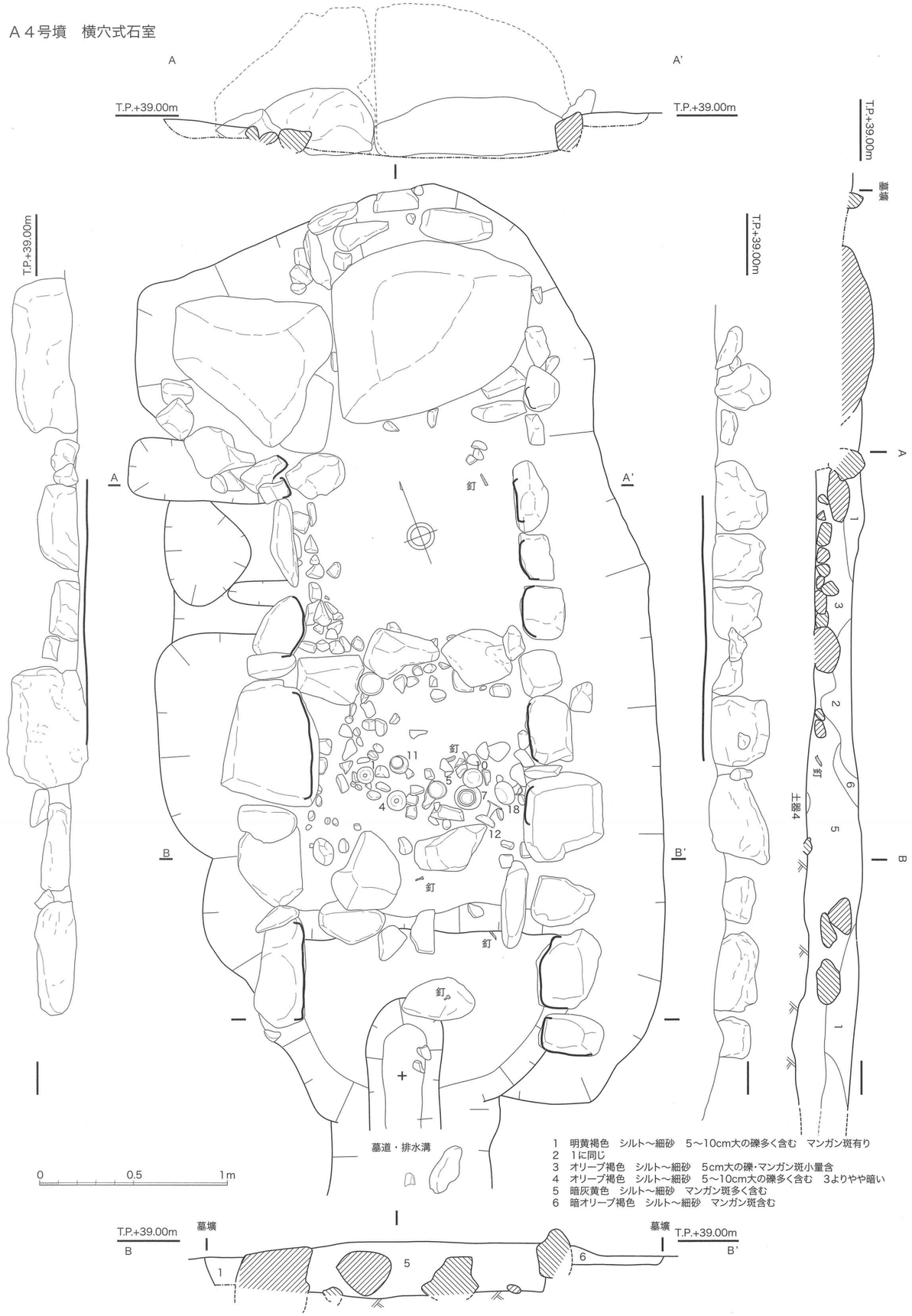
発行日　平成22年３月30日

印刷　株式会社　中島弘文堂印刷所

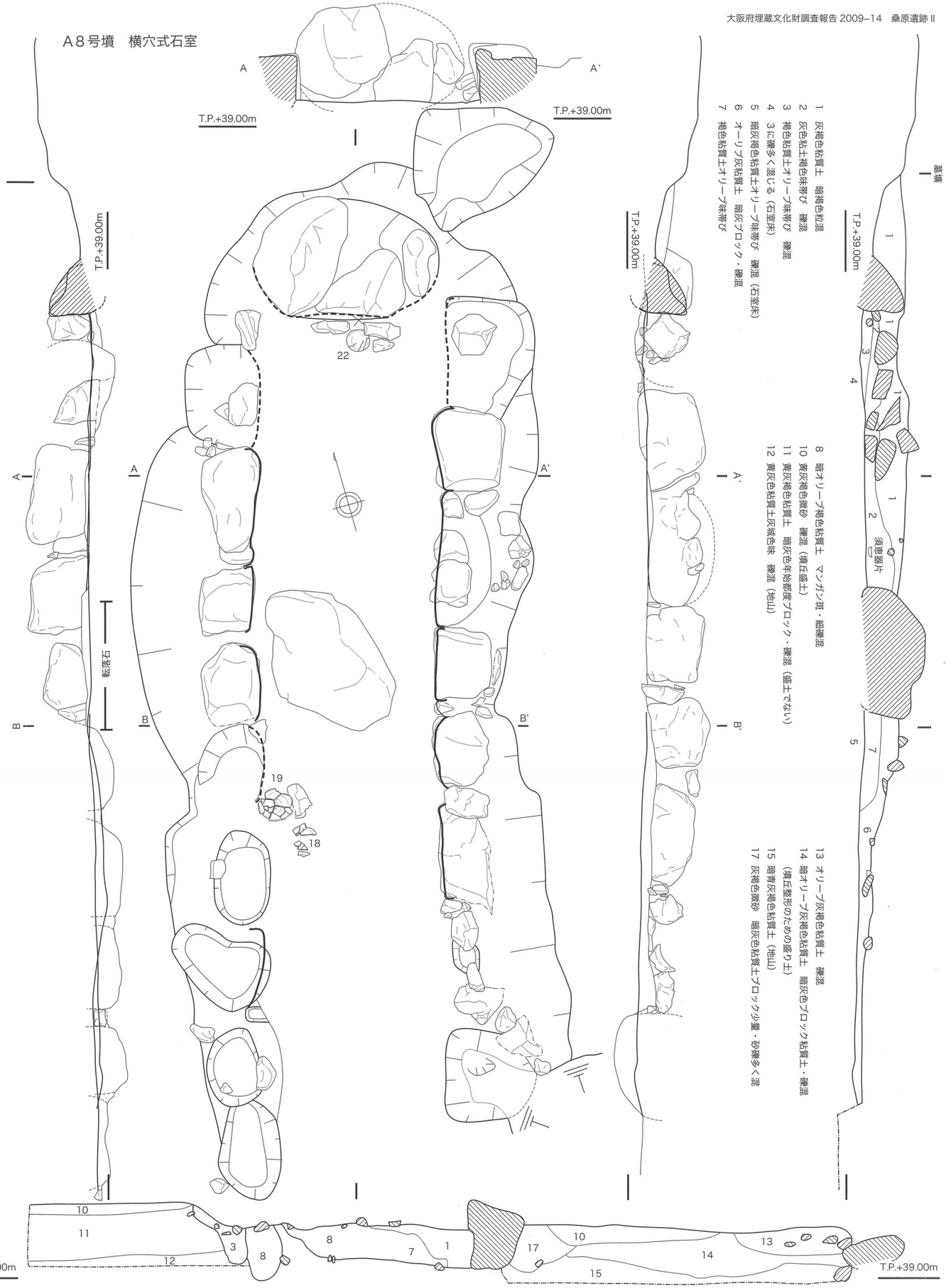
〒537-0002　大阪市東成区深江南２丁目６番８号

付図1　A3号墳　横穴式石室

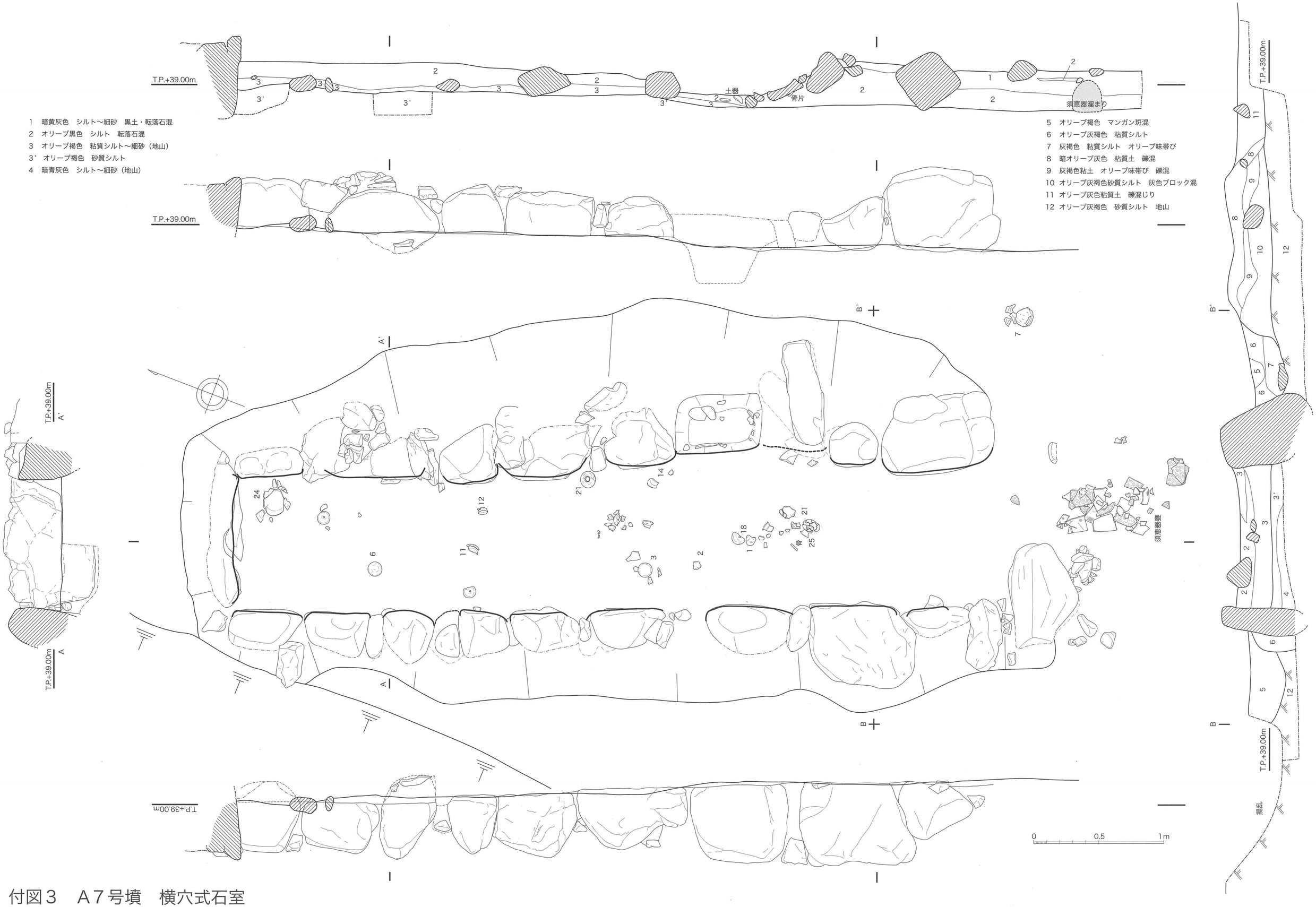
A４号墳　横穴式石室



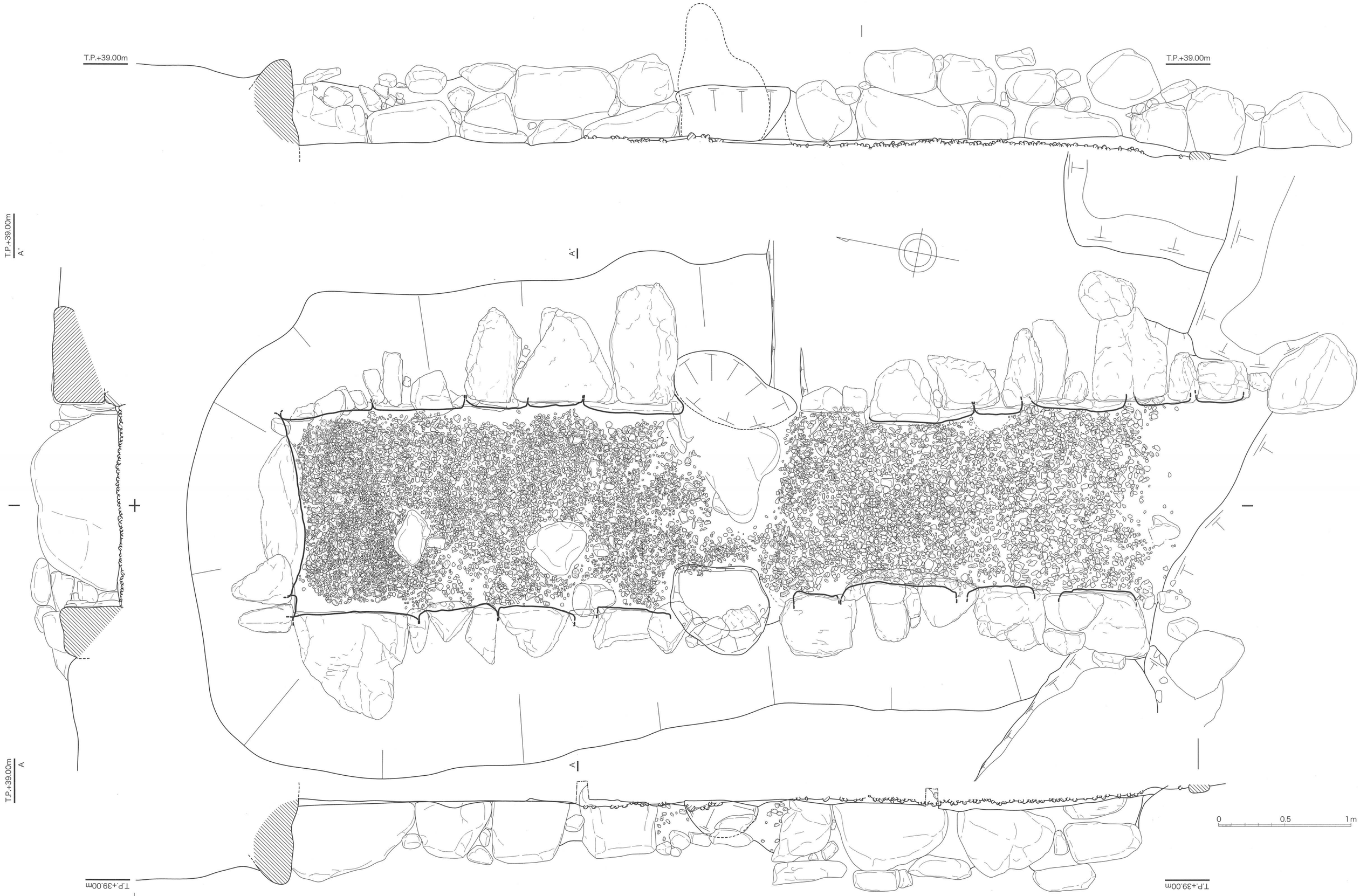
A８号墳　横穴式石室



付図２　Ａ４号墳・Ａ８号墳　横穴式石室

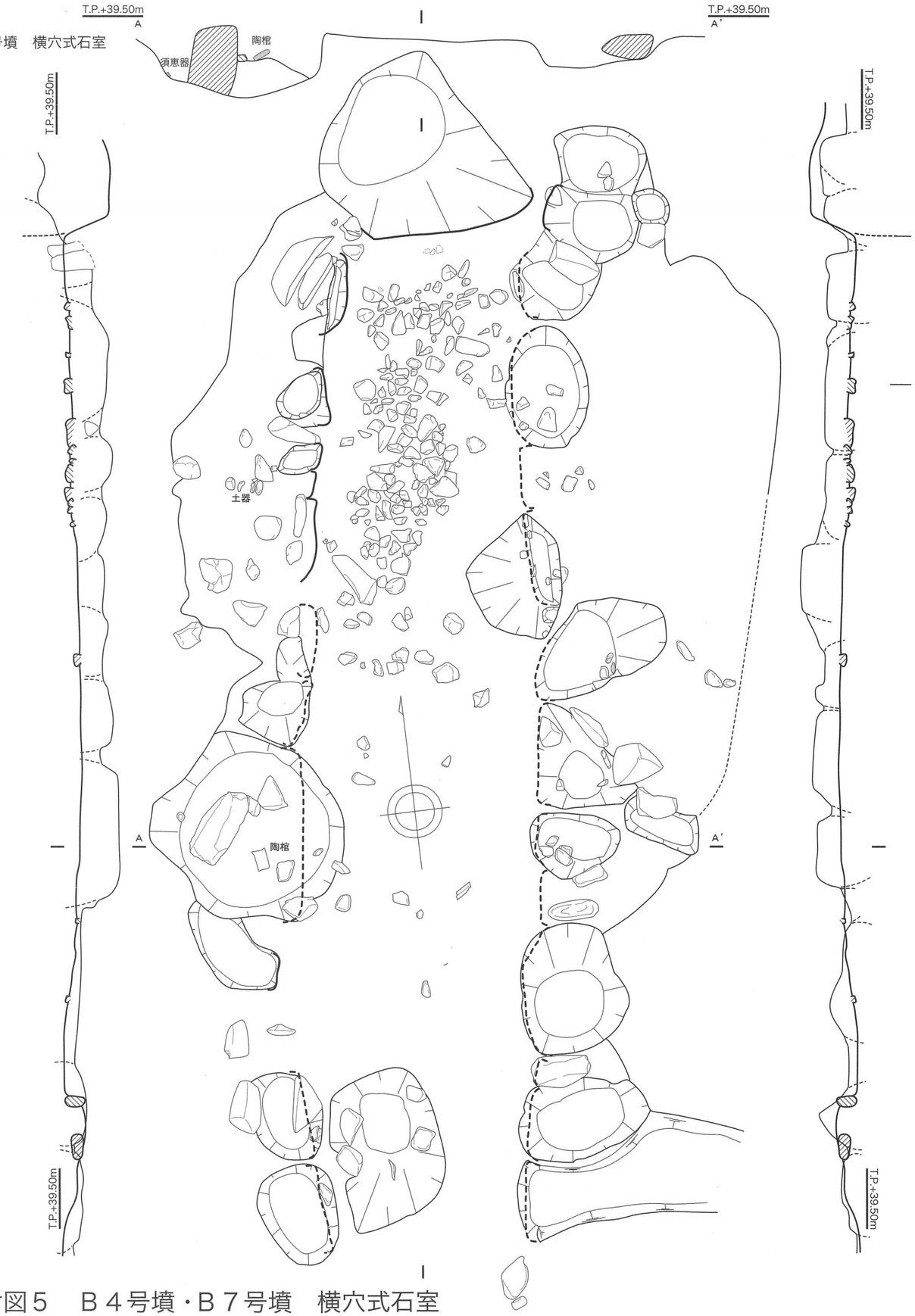


付図３　Ａ７号墳　横穴式石室

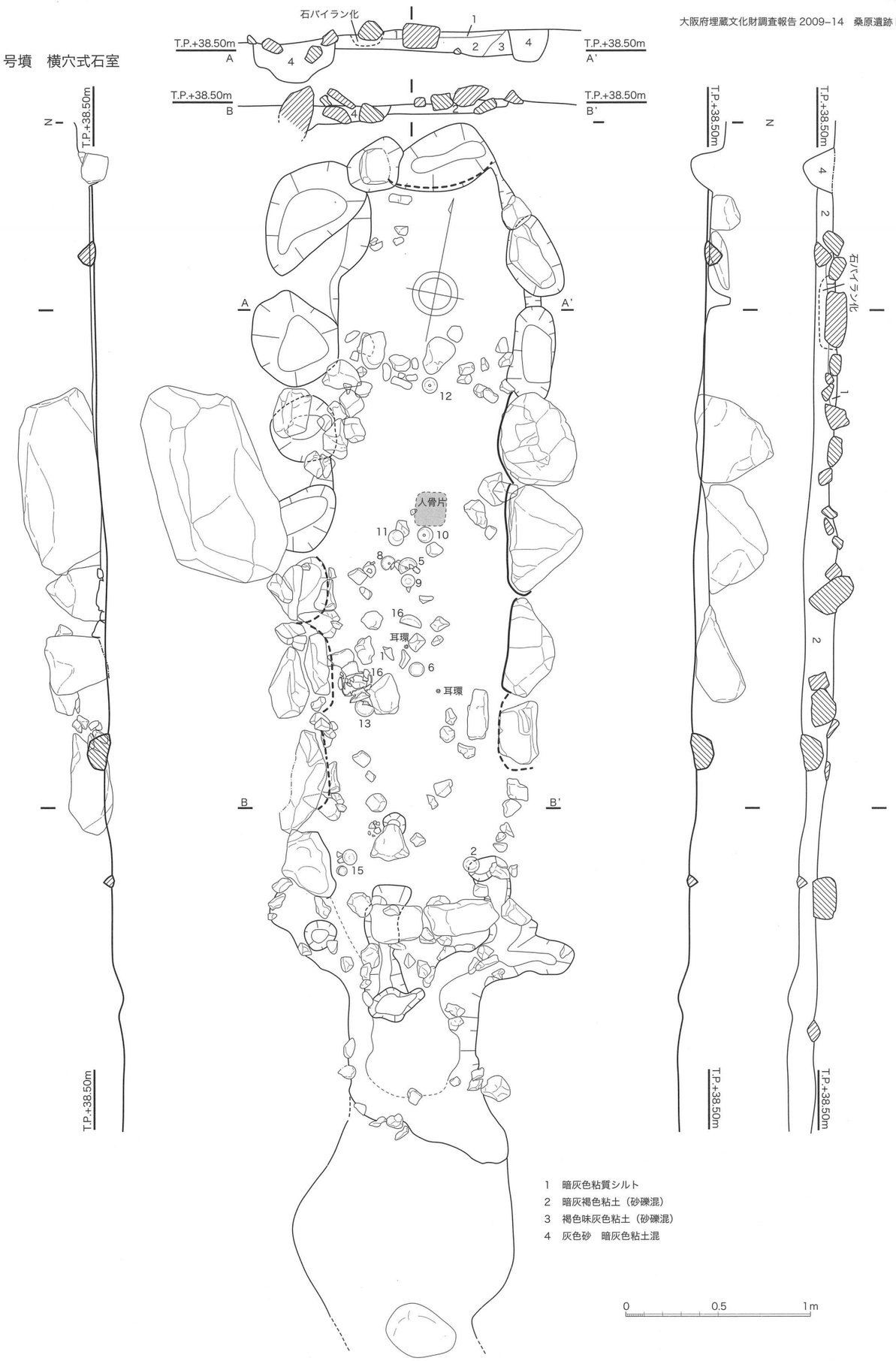


付図４　Ｂ１号墳　横穴式石室

B４号墳　横穴式石室

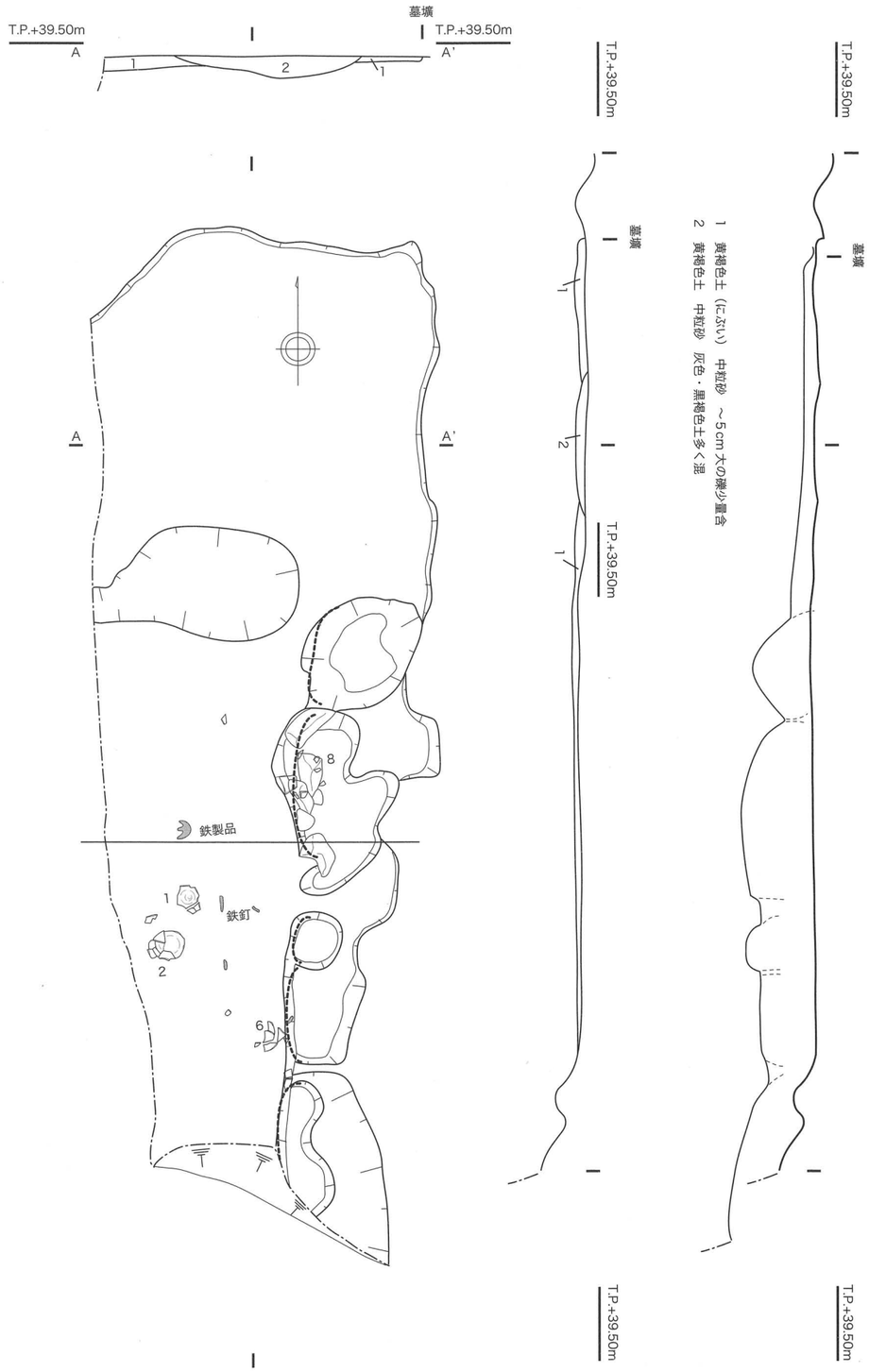


B７号墳　横穴式石室

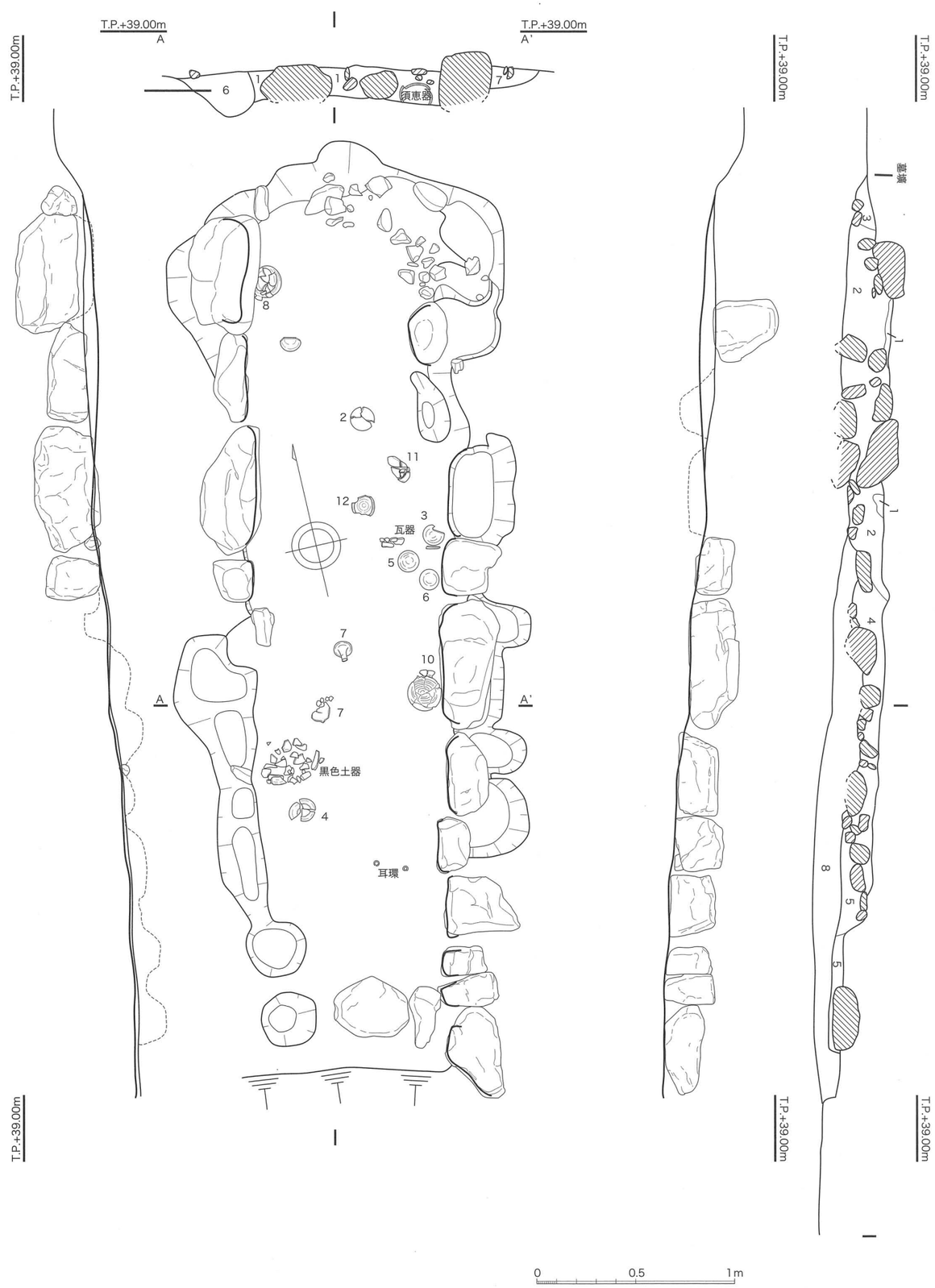


付図５　Ｂ４号墳・Ｂ７号墳　横穴式石室

B８号墳　横穴式石室

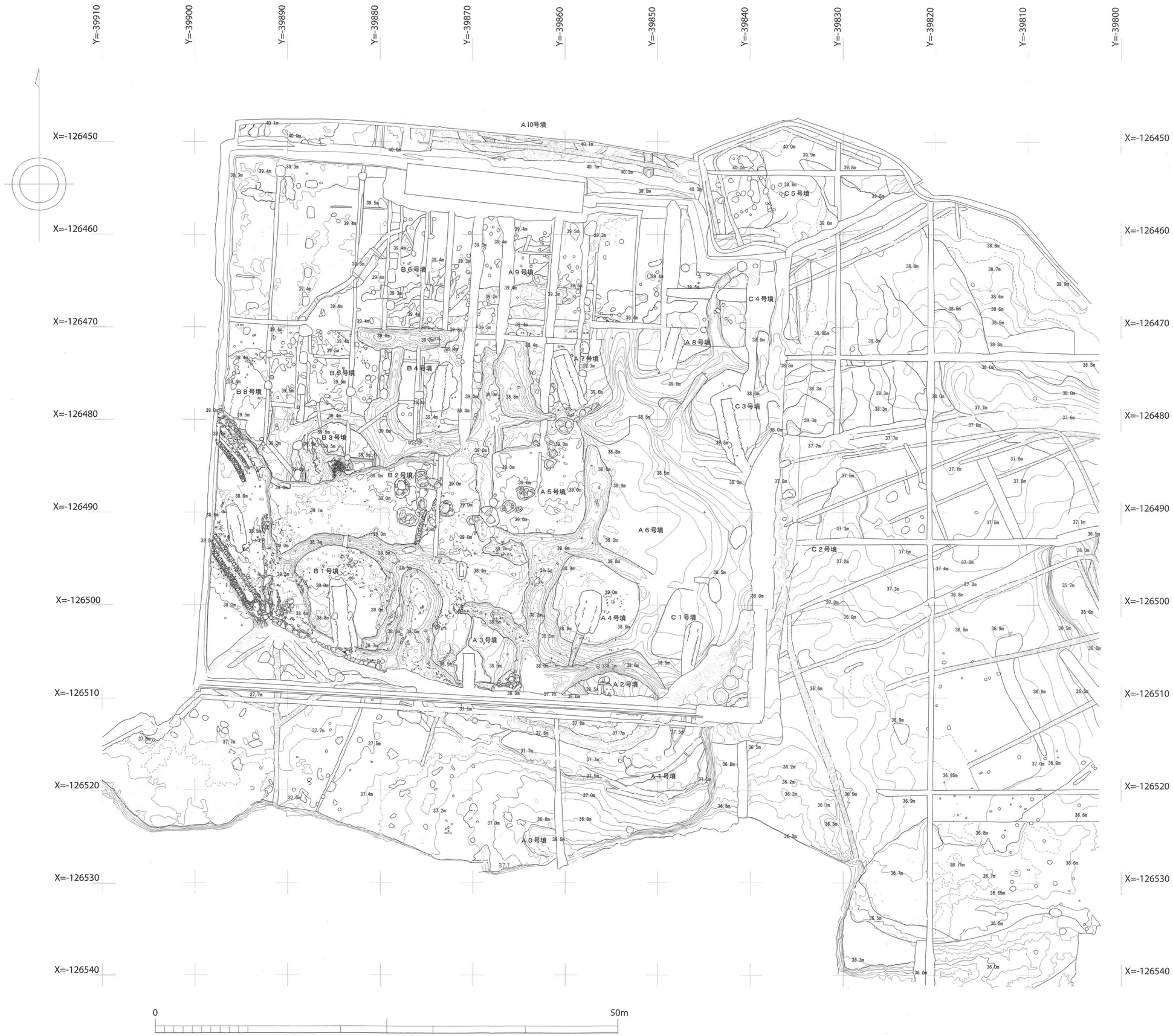


C１号墳　横穴式石室



付図６　Ｂ８号墳・Ｃ１号墳　横穴式石室

付図７　Ｃ３号墳　横穴式石室


Y=-39910
Y=-39900
Y=-39890
Y=-39880
Y=-39870
Y=-39860
Y=-39850
Y=-39840
Y=-39830
Y=-39820
Y=-39810
Y=-39800
X=-126450
X=-126460
X=-126470
X=-126480
X=-126490
X=-126500
X=-126510
X=-126520
X=-126530
X=-126540
A10号墳
A9号墳
A8号墳
A7号墳
A6号墳
A5号墳
A4号墳
A3号墳
A2号墳
A1号墳
A0号墳
B1号墳
B2号墳
B3号墳
B4号墳
B5号墳
B6号墳
B8号墳
C1号墳
C2号墳
C3号墳
C4号墳
C5号墳
0
50m